

二〇二五年一月二四日

二階より見守る芽木の巣箱かな
山茶花の咲き満つ垣根より鳥語
ふるまひ茶一会の人と日向ぼこ
撓みたる竹ののけぞる雪解かな

みきお
やよい
なつき
ほたる

二〇二五年一月二三日

感嘆符つく励ましの寒見舞
みちのくのお国訛りや納豆汁
組みほぐしされたる榎火機嫌よし
ほどきたる思ひ出糸糸玉四つ

康子
澄子
せつ子
うつき

二〇二五年一月二二日

水鏡揺らして鴨の羽づくろひ
寒鯉の身じろぎそめし日差しかな
それぞれに一病ありて初句会

よし女
風民
やよい

二〇二五年一月二二日

苔鎧ひ万蕾ふふむ臥龍梅
大淀にひろぐる寒の落暉かな
日照雨過ぎほのと匂ひし枯葎
甘いよと試食に合点蜜柑買ふ
綺羅を採むちりめん皺や冬日燦
さざなみのやうに音たて風落葉

むべ
はく子
むべ
せいじ
明日香
えいじ

二〇二五年一月二〇日

余念なくあれこれ試着春を待つ
ケトルいま意気軒高と湯気立つる

うつき
あひる

二〇二五年一月一九日

登頂を祝す氷柱のロック酒
墓碑銘をなぞる華人や阪神忌
妹背めく対の老松色変へず
山裾に焼野かがよふ夜明けかな
齊打つ給ひし余生感謝しつ

わたる
せいじ
澄子
むべ
よし女

二〇二五年一月一八日

おしやれしてひと声名乗る初句会
語り部の父母も鬼籍や阪神忌
禍を知らぬ子に語り継ぐ阪神忌
日脚伸ぶ帰宅の道に立ち話
コーランの響く異国の路地ぬくし
藍色の海傾けて野水仙

なつき
うつき
せいじ
きよえ
千鶴
澄子

毎日句会みのもる選・二〇二五年一月二六日